



姉妹都市交流親善団 交流体験記



ザ・ダルズ市

中学生団員21名、各種交流団員5名、一般団員2名を中心とした三好市姉妹都市交流親善団32名が、12月15日から21日までの5泊7日の日程で、姉妹都市であるアメリカ合衆国オレゴン州ザ・ダルズ市を訪問しました。

ザ・ダルズ市は、広大な丘陵地帯にチェリー農園や麦畑がどこまでも広がっています。山や川に囲まれた環境という点では三好市と似ていますが、日本とはスケールの違う大自然がひろがっています。

交流親善団員は、ホームステイをしながら、ザ・ダルズ市の中学校や裁判所、警察署、マウントフードなどを訪れました。ホストファミリーとの自由行動では、一緒にお菓子を作ったり、買物に出かけたりしてアメリカの日常生活がどのようなものかを体験することができました。また、シーユレイターパーティでは三好市とザ・ダルズ市、議会、姉妹都市提携委員会がお互いにプレゼント交換を行いました。

これまでの交流を通してお互いの文化を体験し、認め合いながら築いてきた友情は両市民にとって大きな財産となっています。今回の派遣事業は長年たくさんの友情を育んできた交流とともに喜びあい、さらなる友情が生まれる訪問となりました。

●この旅は、姉妹都市交流親善団としての務めを果たしたり異国の文化を知るだけでなく、ダルズの人たちの優しさを知った旅でもあったと思います。この旅が終わってから、今までよりもさまざまな角度から物事を見ることができるようになったと思います。それに、改めて人と人のつながりの大切さを知りました。たとえ出身国が違って、言葉が違って、相手を思いやり理解しようとする気持ちがあれば、簡単に交流を深めることができることも知りました。これから私が異文化の人々に日本を紹介する立場になっても、私がダルズのホストファミリーにしてもらったように、温かく本当の家族のように迎えたいです。(中学生団員 西岡田千笑)

●出発をする前、私は英語を話せるようになることで、頭がいつぱいでした。でも、アメリカへ行つたことで、ただ話せるようになるだけではなく、異国の文化や生活への知識や理解も深めることが大事なんだなあと、思うことができました。また、家族と離れたことにより、自分がどれだけ支えられて、助けられてきたんだ、という家族の大切さも感じるようになりました。ただアメリカへ行つて、

「もう終わった」とするのはなく、今回のこの貴重な体験を今後自分の、通訳や翻訳、英語の先生という夢を叶えるためのたくさんのことに活かしていきたいと思っています。(中学生団員 森泉稀)

●今回の姉妹都市交流で僕のコミュニケーションというものに対する考え方が変わりました。言葉が通じない人たちだけでなく、友達や、家族、言葉が通じる人たちにも、前向きな姿勢で一生懸命話すことを意識してコミュニケーションをとっていきたいと思います。三好市では体験できないことをたくさん経験し、いつもと違う言葉や文化に触れて「世界は広い!」ということを実感し、僕も少し大きくなれた気がします。そして今度は自分の力でアメリカに旅行してみたいと思います。(中学生団員 伊丹隆太)

●たくさんの人と出会い、初めての外国で他ではできない貴重な経験ができました。ホストファミリーの人や、愛想がいいとはいえない私と仲良くしてくれた友達、笑顔で話しかけてくれたミドルスクールの皆さん、すべての人に感謝です。異なる文化の国の人と交流したこと

で、自分の視野を広げることができたと思います。また、「教科」の一つというイメージが強かった英語を、生きた「言語」として感じるようになりました。今回の姉妹都市交流は、本当に忘れられない、いい経験になりました。(中学生団員 平尾雪)

●今回、アメリカ・ダルズ市を訪問したことによって、本物の英語や外国の文化に直接触れることができました。言葉が十分に話すことができなくても、身振り手振り、簡単な単語でも積極的にコミュニケーションをとりにいくことが大切だと思いました。また、アメリカの中学生を見習って、普段の学校生活や日常生活でももっと積極的にになりたいと思いました。約1週間のアメリカでの体験を生かして、これからの生活や将来に役立てていきたいです。(各種交流団員 柳生夏希)

●ホストファミリーやミドルスクール、シニアハイスクールで出会った人たちと、もう少し長く一緒に過ごしたい。そんな風に後ろ髪を引かれるような思いになるのはきつと、国や言葉などを越えて、人どうしの繋がりが

ろうと豪語してみます。またダルズ市を訪れる機会があるのならば、いえ、何が何でも機会を作ってみせるのですが、その時はもっと自分の英語力や考えを伝えようとする姿勢を育てて、今回よりも成長できているようにしておきたいです。このホームステイの体験を忘れずにこれからも語学の勉強、人との関わり合い、そして自分の考えを伝えることを忘れないように、日々精進していきたいと思っています。(各種交流団員 西尾夏希)

●アメリカでは日本と似た環境でありながら、人と人との関わりを大事にしている様な気がします。アメリカ人はオーバーリアクションだなと思つていましたが、そのオーバーリアクションが人の心を響かすのだと感じました。もちろん、これはメールや電話では体験できません。私がダルズに訪問するまでは、悲観的でアメリカ人は合理的で、あまり家族や友人以外の人に対しては無関心で、表面上の付き合いが上手な人達だと感じていました。とても歓迎され訪問を切っ掛けに捉え方を一変させられました。百聞は一見に如かずという言葉が当てはまりました。(一般団員 来見幸太郎)